

漁況情報 No.12

平成 18 年 9 月 4 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

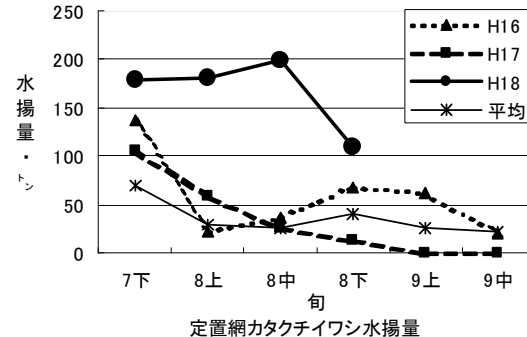
Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

* 本報は当センターホームページ (<http://www.pref.iwate.jp/hp5507/>) に掲載しています。

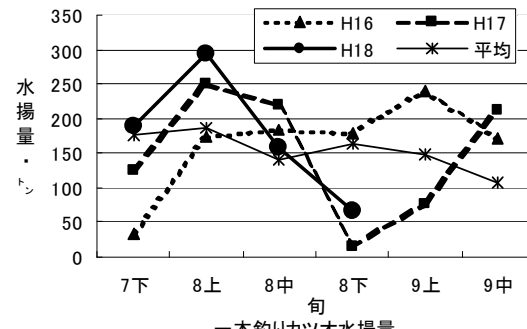
<< トピックス >>
カタクチイワシ(定置網)の水揚げは引き続き好調です。
カツオ(一本釣りの水揚げは減少しました。
スルメイカ(いか釣りは低調に推移しています。

1. 水揚げ状況

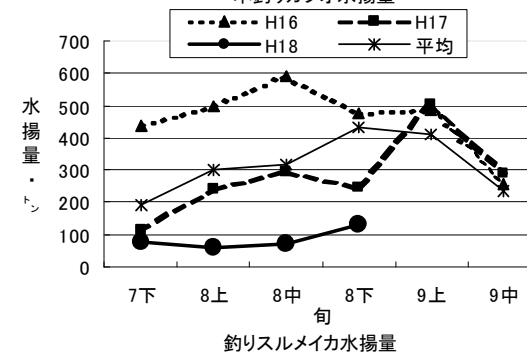
(1) カタクチイワシ (定置網) は久慈、山田を中心に水揚げがありました。8月下旬の水揚げ量は110トン(前年の8.6倍)、年累計は1,222トン(前年の2.4倍)でした。また、8月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は41トンで、旬水揚げはその2.7倍でした。



(2) カツオ (一本釣り) は大船渡のみで水揚げがありました。8月下旬の水揚げ量は67トン(前年の4.4倍)、年累計は852トン(前年の77%)でした。また、8月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は164トンで、旬水揚げはその41%でした。



(3) スルメイカ (いか釣りは) 宮古、釜石、大船渡を中心に水揚げがありました。8月下旬の水揚げ量は132トン(前年の54%)、年累計は511トン(前年の54%)でした。また、7月下旬の過去5年間の平均水揚げ量は434トンで、旬水揚げはその30%でした。



* 水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計です。

2. 調査結果、その他の情報

(1) カタクチイワシ精密測定結果

8月下旬に釜石魚市場に水揚げされたカタクチイワシ(定置網による漁獲)の精密測定を行いました。体長の範囲は11~14cmで、オスが12cm、メスが12.5cm主体であり、7月中旬と同様の結果でした(図1)。生殖腺体指数(体重に対する生殖腺重量の割合)は7月中旬に比べ、8月下旬の方が低い値であり(図2)、7月中旬に成熟していた魚が、8月下旬には産卵を終えたものと考えられました。

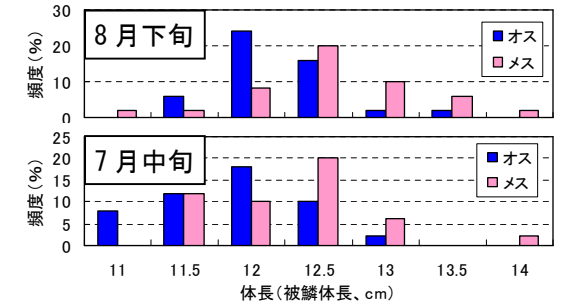


図1 カタクチイワシ体長(被鱗体長)組成

(2) ショッコ(ブリ幼魚)精密測定結果

8月下旬に釜石魚市場に水揚げされたショッコ(ブリ幼魚)の精密測定を行いました。8月下旬の水揚げ量は28トン(前年の6.2%)、年累計は80トン(前年の8.5%)で、近5ヶ年で最も水揚げ量の多かった昨年を大きく下回りました。本県には主に8月から11月にかけてショッコが来遊します。体長の範囲は21~31cmで、主体は28cmでした。

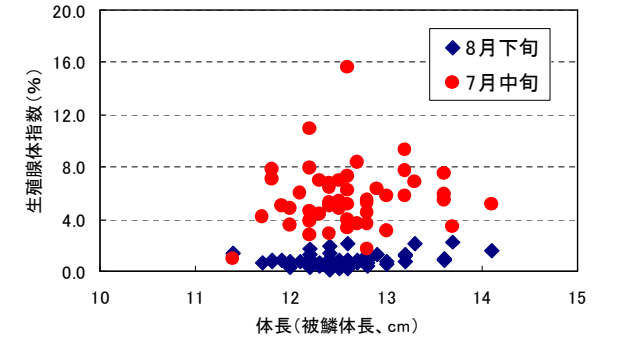


図2 体長(被鱗体長)と生殖腺体指数

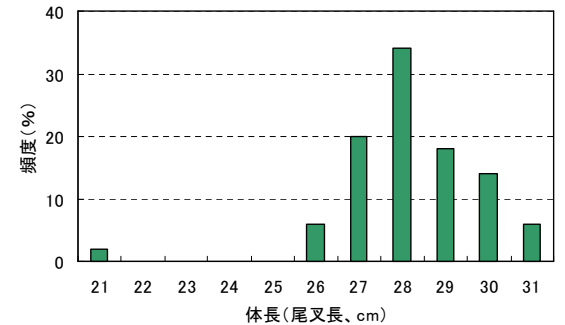


図3 ショッコ体長(尾叉長)組成

3. 調査船調査計画(9月)

	調査内容	調査期間
岩手丸	沖合定線海洋観測調査	9/4~8
	サンマ漁場調査・大型クラゲ調査	9/11~29
北上丸	タコ類カゴ標識調査	9/1、/27~29
	イカ漁場調査	9/4~6、/11~15
	仔稚魚・動物プランクトン調査	9/7~8、/25~26
	カニカゴ、刺網調査	9/19~22